

CT検査説明＋コード説明書

検査説明日

CT検査では、X線により身体の断面像がえられ、目的臓器の詳しい情報がわかります。

検査は、撮影台でCT装置に入って撮影をします。X線を使用しますが人体に障害を与えるような線量ではありませんので全く心配ありません。

以下に検査の注意点を説明しますので、良く読んでいただき、不明な点がありましたらお尋ねください。

1. 当日は予約の**15分前**までに「放射線・内視鏡受付」にお越しください。
2. 標準的な検査時間は10分～15分程度です。トイレはあらかじめ済ませておいてください。
3. 撮影部位によっては衣服が撮影に支障をきたすことがありますので更衣をしていただきます。あらかじめ更衣しやすいようにしておいてください。
4. 絶食の指示をされた方は、検査予約時間の3時間前から食べたり飲んだりしないで下さい。
少量の水程度なら構いません。
5. 胸部や腹部などの検査では息を止めて撮影を行います。息止めのタイミング等につきましては検査担当者が説明をします。耳がご不自由な方、息止めが難しい方は受付時に申し出て下さい。
6. 造影剤を使用して検査を行う場合があります。もし検査中に気分が悪くなった場合は、声に出していただければ検査担当者に聞こえます。また、少しでも違和感等があれば遠慮せず申し出て下さい。
7. 予約時間を厳守するよう努力をしておりますが、緊急検査や装置の事情等により、検査が遅れることや、順番が入れ替わることがあります。誠に申し訳ありませんが、ご了承ください。

特に女性の方へ

CT検査は決して危険な検査ではありませんが、特に女性の場合には妊娠初期の下腹部への被ばくを伴う場合は、注意が必要です。妊娠中の方や妊娠の可能性がある場合は、必ず主治医とご相談ください。

妊娠の可能性がある場合は、検査当日でも結構ですので、その旨必ず申し出て下さい。

放射線・内視鏡受付



ヨード造影剤使用に関する説明書

検査説明日

ID: _____

様

1.ヨード造影剤の使用目的

今回行う検査(CT、腎尿路造影、血管造影、胆道造影)では、ヨード造影剤という薬を使用します。この薬を使用することで、写真にコントラストが付き、病変が明瞭になり、正確な診断を行える利点があります。

2.ヨード造影剤の使用手法

造影剤は手押しあるいはインジェクターという機械を使って血管の中に注入されます。造影剤が血管の中に注入されていくと多少熱感が発生しますが一時的で心配いりません。

3.ヨード造影剤の副作用

造影剤により2~3%に吐き気、じんましん、くしゃみといった軽い副作用、0.1%未満で呼吸困難、血圧低下といった重篤な副作用が発生することが報告されています。非常にまれではありますが、0.00025% (40万人に1人程度)で死に至った報告もあります。これらの症状は投与直後に発生することが多いです。しかし、時に1時間から数日後にじんましん、かゆみといった症状が出現してくる遅延型副作用がありますが、重篤なものはきわめてまれです。こういった副作用は、アレルギー歴のある方、喘息の方では通常より発生頻度が3~10倍高いことが報告されています。(喘息は原則禁忌)

その他以下の疾患を有する方は造影剤の使用で別の副作用が出現する可能性があります。

- 腎障害のある方：造影剤は腎臓から排泄されますので腎障害のある方はさらに障害を悪化させることがあります。
- 重篤な甲状腺機能亢進症のある方：造影剤はヨードを含有していますので甲状腺中毒等の重篤な副作用が出現することがあります。
- 糖尿病のビグアナイド系薬剤(メトグルコ等)を服用されている方：造影剤により副作用(乳酸アシドーシス)をきたすことがあります。当院糖尿病内科では、造影検査の3日前・検査当日・検査後の3日間(合計7日間)の休薬をお勧めしています。ご不明な点は主治医、担当医にご相談下さい。

4.副作用発生時の対応

検査中は、医師、看護師、放射線技師らで常に厳重に観察し、何らかの異常が発生した場合造影剤注入を中止し、必要があれば抗アレルギー薬の投与等を行い万全の対応を致します。遅延型副作用と思われる症状が出現した場合、平日の時間内では放射線科へ、時間外、休日の場合、救急外来へ御連絡下さい。

説明医師氏名 _____